

昔むかし、あるところに、貧しいお百姓とおかみさんが住んでいました。

ある日、お百姓は、牛を売りに市場へ出かけていきました。

歩いていくと、羊を連れた男の人に会いました。お百姓は、

「いい羊だなあ」と思いました。男の人は、

「いい牛だなあ」と思いました。そこで、お百姓と男の人は牛と羊を取り替えました。

お百姓が羊を連れて歩いていくと、がちようを連れた男の人に会いました。お百姓は、

「いいがちようだなあ」と思いました。男の人は、「いい羊だなあ」と思いました。そこ

でお百姓と男の人は、羊とがちようを取り替えました。

お百姓が、がちようを連れて歩いていくと、壺を持ったおばあさんに会いました。お

百姓は「いい壺だなあ」と思いました。そこで、お百姓は、がちようと壺を取りかえて

もらつて、壺を抱えて家に帰つていきました。

家に着くと、おかみさんが、

「牛はうまく売れたかい」とたずねました。お百姓は、

「ああ、とつてもうまく売れたよ。この壺と取りかえてきたんだ」と答えました。

「壺と取りかえたつて。牛の代わりに壺ひとつなんて、えらい損じゃないか」

「でも、取りかえちゃったんだから、しかたがないさ」

お百姓はそういつて、壺を棚の上に乗せました。

しばらくすると、棚の上の壺が、

「ちよつと出かけるよ」といいました。おかみさんは、びっくりして、

「どこへいくの」とききました。

「お金持ちのだんなさんのとこだよ」といつて、壺はとことこ出かけていきました。

お金持ちのうちに着くと、壺は、のこのこ台所に入つていきました。すると、うちの

人が壺を見て、

「おかゆを入れるのにちようどいいわ」といつて、おいしいおかゆをたつぷり壺の中に

入れました。すると、壺が、

「じゃあ、出かけるよ」といいました。うちの人はびっくりして、

「まあ、どこへいくの」とききました。

「貧しいお百姓のとこだよ」

壺はそういつて、さつさと台所から出ていきました。

壺が帰つてくると、お百姓とおかみさんは大喜びでおかゆを食べました。そして、壺

をきれいに洗つて、棚の上に乗せました。しばらくすると、また壺がいました。

「ちよつと出かけるよ」

おかみさんが、

「おや、また出かけるの。どこへいくの」とききました。

「お金持ちのだんなさんのとこだよ」といつて、壺はとことこ出かけていきました。

お金持ちのうちに着くと、壺は、またのこの二台所に入っていきました。うちの人が、「バターを入れるのにちょうどいいわ」といって、バターをたつぷり壺の中に入れました。すると、壺が、

「じゃあ、出かけるよ」といいました。うちの人はびっくりして、

「どこへいくの」とききました。

「貧しいお百姓のときだよ」

壺は、さつさと出ていきました。

壺が帰ってくると、お百姓は、バターを取りだし、壺をきれいに洗って棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいました。

「ちよつと出かけるよ」

「おや、また出かけるの。どこへ行くの」

「お金持ちの旦那さんのときだよ」

壺は、とことこ出かけていきました。

お金持ちのうちに着くと、壺は、こんどは旦那さんの部屋に入っていきました。旦那さんは、お金を数えているところでした。そして、壺を見ると、

「お金を入れるのにちょうどいい」といって、お金をぜんぶ壺の中に入れました。すると、壺が、

「じゃあ、出かけるよ」といいました。旦那さんは、あわてて、

「いったい、どこへいくんだ」とききました。

「貧しいお百姓のときだよ」

壺は、さつさと出ていきました。

壺が帰ってくると、お百姓は、お金を取りだし、壺を棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいました。

「ちよつと出かけるよ」

「おや、また出かけるの。どこへ行くの」

「教会の牧師さんのときだよ」

壺は、とことこ出かけていきました。

教会に着くと、牧師さんは、お金を数えているところでした。牧師さんは、壺を見ると、

「お金を入れるのにちょうどいい」といって、お金をぜんぶ壺の中に入れました。

「じゃあ、出かけるよ」

「いったい、どこへいくんだ」

「貧しいお百姓のときだよ」

壺は、さつさと出ていきました。

壺が帰ってくると、お百姓は、お金を取りだし、壺を棚の上に乗せました。しばらくすると、壺がいました。

「ちよつと出かけるよ」

「おや、また出かけるの。どこへ行くの」

「牧師さんのとこだよ」

壺は、とことこ出かけていきました。

教会に着くと、牧師さんは、小麦粉をはかっているところでした。壺は、ぱっと大きな柵（粉を計る四角の容れ物）に化けました。牧師さんは、柵を見ると、

「小麦粉を計るのにちょうどいい」といって、柵の中に入れました。小麦粉はぜんぶ入ってしまいました。

「じゃあ、出かけるよ」

「いったい、どこへいくんだ」

「貧しいお百姓のとこだよ」

柵は、さつさと出ていきました。

柵が帰ってきて、お百姓が小麦粉を出してしまうと、柵はまた壺にもどりました。お百姓は、壺を柵の上に乗せました。しばらくすると、壺がいました。

「ちよつと出かけるよ」

「おや、また出かけるの。どこへ行くの」

「牧師さんのとこだよ」

壺は、とことこ出かけていきました。

牧師さんは、かんかんに腹を立てていました。そこで、壺をつかまえると、その上にまたがって、うんこをしました。そのとたん、壺はぱっと大きくなりました。牧師さんは、すぽんと壺の中に落っこちてしまいました。

「じゃあ、出かけるよ」

「おい、出してくれ。どこへいくんだ」と、牧師さんはさげびました。壺はいました。

「地獄へ行くんだよ」

おしまい

原話：『北欧の民話』山室静著／岩崎美術社

再話：村上郁◎